



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

平成 22 年 6 月 19・20 日(土・日)
春の黒松剪定会 編

涼しかった前日までのお天気が一変。真夏のような日差しと気温になった中、能代バイパス黒松友の会の春の剪定会が 2 日間にわたって開催されました。参加された方々は、皆さん前週の 13 日(日)に開催された剪定講習会(室内での講義と実際に鋏を使っての現地講習)の成果をいかに発揮されていました。

この日(19日)の参加者は約 70 人。国道 7 号の能代港入口交差点から豊祥岱交差点間の沿道の植栽帯に、お揃いのキャップやベストを身に着けた会員の方々の姿が点在します。春の作業は「みどりつみ」といい、「親」となったご自分の黒松の伸びてきた枝や芽に鋏をいれています。

黒松ハウスから北に向かって歩いていくと、ひときわ背の高い黒松に取り組んでいる方を発見。見上げてみると、前会長の斉藤正さんでした。斉藤さんは発足時からのベテラン会員。みどりつみのポイントをうかがうと、

- ・上から順に下に向かって作業する
- ・空が見えるかどうか、時々、下からも見上げてみる
- ・長く伸びてきた「みどり(=新芽)」を摘む
- ・枝の間に詰まっているごみや松ぼっくり、剪定枝は取り除く
- ・松の成長のための栄養が行かないよう、花芽は摘む
- ・松の成長した先の全体像を思い浮かべて剪定する

と、すぐに出来そうなこともあれば、なかなか奥深いこともあって、それが魅力の一つなのかな・・・と感じました。

剪定の終わった黒松は、散髪帰りのようにとてもすっきりしています。手をかける人と黒松、それぞれの個性が感じられました。また、特に形の整った黒松は、下から見上げると黒い枝が亀甲紋のような形をして、きれいに並んでいます。まち灯りの時には、この黒松たちもゆっくりご覧いただければと思っています。

詳細は「能代河川国道事務所ニュース」691号、696号参照
<http://www.thr.mlit.go.jp/noshiro/jimusyo/news/news.htm>

文： 渡辺 千明



会員の方々がおもいおもいに作業を進めています。



現会長の工藤昭男さんの黒松は完成間近なのかだいぶサツパリとしていました(左)。斉藤さんの黒松は背が高く、ほかより作業が大変そうです(右)。



剪定された新芽部分。場合によっては残すこともあるのが奥深いところです。残すにしても花芽は摘んでしまいます。



当日参加できない会員の松には札がかけられています。



一昨年ご異動になった平野さんが剪定されていたという事務局の黒松。この日は、斉藤さんの直接指導を受けながら、岸野所長が頑張っておられました。